

大会宣言

私たちは本日、「東武ホテルレバント東京」で結成 20 周年の節目となる、第 21 回定期大会を開催し、この間の運動の成果を確認するとともに、運動方針を満場一致で決定し、次なる 20 年にむけ、新年度の運動を力強く展開していくことを確認した。

J R 連合結成以降、私たちは多くの苦難を乗り越え、政策力そして組織力を着実に高め、J R の代表産別としての今日の確固たる地位を築いてきた。

現在、わが国は、東日本大震災からの復興、そして日本の再生にむけて、国をあげて全力を傾注している。基幹インフラである鉄道の重要性を再認識し、私たちは、従来以上に社会に貢献する安全で信頼される J R を築き、震災復興そして日本の再生に対しても、最大限の役割を發揮していかなければならない。

まず、最優先課題である安全対策について、今なお労災死亡事故や重大事故が続いている実態を深刻に受け止め、J R 福知山線事故をはじめとする惨事の教訓と反省を胸に刻み、取り組みをさらに強化しなければならない。昨年補強・改訂した J R 連合「安全指針」に基づいて、引き続き「すべての J R 関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を重点テーマに位置づけ、J R はもとより、グループ会社、さらには協力会社に働く全ての労働者を対象に、職場からの安全の確立にむけて実効ある運動を着実に進めることとする。さらには、喫緊の課題である高速ツアーバス問題や鉄道防災・減災対策についても、J R 連合が先頭に立ち取り組むこととする。

そして、政策課題では、今日までの成果を糧に、J R 三島・貨物会社に対する抜本的な支援策や鉄道貨物へのモーダルシフト、そして地方路線の維持・活性化をはじめとする、中長期的な構造的課題に着手し、真に自立経営が可能な J R を目指す。また、上程中の「交通基本法」の成立を通じ、日本の社会、経済の活性化に寄与する、鉄道の特性を活かした持続可能な交通体系の形成に全力をあげなければならない。また、労働政策については、雇用や労働条件の向上、ワーク・ライフ・バランスの実現にむけ、とくにグループ労組、非正規組合員への対応を重視して精力的に取り組むこととする。

さらに、浦和電車区事件の刑事裁判の完全勝利という民主化闘争の到達点を踏まえ、国鉄改革の残滓である J R への革マル浸透問題を一日も早く解決し、J R 連合への総結集を果たすために、戦略と執念を持って闘いを展開することとする。

国鉄改革の本旨は、鉄道の再生を果たすことにある。私たちは、J R 発足 25 年、そして J R 連合結成 20 年の節目に、改めて J R の役割と責任を認識し、次なる 20 年、そして 25 年にむけて、残された課題を解決し、国鉄改革を真に完遂させ、社会に愛され、信頼される J R を築かなければならない。J R 連合は、J R の代表産別として、組織をあげて運動を積極果敢に展開していく決意を表明する。

以上、宣言する。

2012年6月22日

日本鉄道労働組合連合会（J R 連合）
第 2 1 回 定 期 大 会